

ふくしまの

故郷とあなたをつなぐ情報紙

今が分かる新聞

vol.108

令和7年3月18日(火)発行

「ふくしまの今が分かる新聞」では、県内外に避難されている皆さまや被災者・避難者支援に携わる多くの方々へ、避難者支援の取組や福島の復興に向けた動きなど、「ふくしまの今」が分かる情報をお届けします。



PICKUP VIEW

前田川の桜

双葉町

桜は双葉町民の歌にも登場する町の花。前田川沿いの約2kmにわたって続く桜並木は、町有数の観桜スポットとして親しまれています。

特集1 令和6年度「3.11 ふくしま追悼復興祈念行事」が開催されました

特集2 令和7年内にオープン予定の商業施設や複合施設などの紹介

「3.11 福島追悼復興祈念行事」

が開催されました

東日本大震災で犠牲になられた方々へ哀悼の誠を捧げるとともに、復興への想いを新たにするため、「3.11 福島追悼復興祈念行事」を行いました。

3月11日㈯に開催した東日本大震災追悼復興祈念式の模様について、福島県のホームページにおいて動画を公開しています。また、県内各地で開催されたキャンドルナイトについても情報を掲載しています。

ホームページは
こちら



2025年3月11日のメッセージ

「東日本大震災は一瞬でその美しい景色を壊し、色とりどりだった世界を灰色に変えてしまいました。あれから14年が経ち、福島は少しずつ色を取り戻し、力強く前向きに未来を明るく照らしています。」

(原町第一中学校 鈴木 真日瑠さん「未来への手紙」)

2011年3月。東日本大震災の巨大な地震と津波、そして東京電力福島第一原発事故。私たちの日常を一変させた未曾有の複合災害は、14年の歳月を経た今もなお、多くの困難な課題をもたらし続けています。復興への長く険しい道のりが続く中、県民の皆さんの懸命な御努力と国内外からの温かい御支援により、福島の希望の光は確実に輝きを増し、私たちの歩む道を照らしています。

本県ゆかりの選手が県民に勇気と元気を届けてくれた、パリ2024オリンピック・パラリンピック大会。14年前の今日、富岡町で被災されたバドミントン競技混合ダブルスの渡辺勇大選手・五十嵐有紗選手が、苦難や葛藤を乗り越え、二大会連続で銅メダルを獲得し、福島県に凱旋してくれました。原発事故後、再生可能エネルギーを共に推進してきた、ドイツのノルトライン＝ヴェストファーレン州。協定締結から10年、顔の見える交流を積み重ね、連携を深めています。東京電力福島第一原発2号機からの燃料デブリの試験的取り出し。その量は0.7グラム。880トンにも及ぶとされる燃料デブリ全体からすれば極々わずかですが、14年間知り得なかった原子炉内部の実態を解明するための貴重な一粒です。

一方で、今もなお、避難生活を余儀なくされている方々はおよそ2万5千人。古里への帰還を果たしても、多くの仲間と暮らしたかつての日常は失われたままです。長期にわたる廃炉作業や、除去土壌等の県外最終処分に向けた取組など、原子力災害特有の課題は依然として山積しています。

「これからの福島県は課題や乗り越えなくてはならないことがたくさんあります。僕は震災のことを知らない初めての世代として震災の体験談は話せないけど、一つ一つの目標に向かって自分ができることをがんばります。」

(白河第二中学校 吉田 壮佑さん「未来への手紙」)

昨年の11月、震災と原発事故の発生から5,000日が経過しました。震災を知らない若い世代が今後、更に増えていく中、同じ悲劇を二度と繰り返さぬよう、記憶と教訓を後世に引き継いでいかなければなりません。福島県内のみならず、国内外の若い世代の皆さんが震災学習や現地訪問を通じて学びを深めています。被災された方々の言葉に真摯に耳を傾け、自分事として捉えようとするその姿は、正に未来への希望です。

「今あるこの幸せを、少しでも多く少しでも長く、未来へつないでいくことができるように。」

(岩代中学校 遠藤 美咲さん「未来への手紙」)

震災と原発事故を経験した私たちは、今あるこの日常が当たり前ではないことを知っています。自然の脅威に備えることや、安全神話は絶対ではないことを伝え続けなければなりません。そして、苦難や困難の中にあっても、多くの仲間と共に着実に歩みを進め、一つ一つ実現してきたことも。

昨年10月、本県出身で日本を代表する俳優、西田敏行さんが惜しまれつつ天国へと旅立たれました。福島の復興の歩みを伝える「東日本大震災・原子力災害伝承館」のエントランスでは、西田さんの優しくも温かな福島なまりのナレーションが今日も響いています。誰よりもふるさと福島の復興を案じ、震災直後、深刻な風評被害に苦しむ福島の農産物を口いっぱいにはお張り、「福島は何かあっても負けねえぞ、『うつくしま、ふくしま。』を取り戻すべな」と、声を張り上げてくださいました。私たちは、こうした西田さんの思いを胸に刻み、決して諦めることなく、挑戦を続けていきます。

来年、福島県は誕生から150周年という節目の年を迎えます。先人たちがたゆめぬ努力と果敢な挑戦を続け、様々な困難を乗り越えてきたからこそ、今の福島県があります。私たちの挑戦も、いつか後世の人々に「あの時代の先輩たちが頑張った歴史の上に私たちの今がある。」と言ってもらえる日が必ず来ると私は確信しています。そして、西田さんが生前見せてくれたような笑顔があふれる福島県を必ず創り上げる、そんな強い決意の下、県民の皆さんや福島を応援して下さる全ての方々と共に、私たちの未来図に彩りを加えながら、明るく豊かな福島県を築いてまいります。

令和7年3月11日

福島県知事 内堀 雅雄



令和7年内にオープン予定の 商業施設や複合施設などの紹介

日常生活に欠かせないスーパーを始め
避難地域で新たな商業施設や
複合施設等が、令和7年内に
続々オープンします。

大熊町

大野駅西商業施設 (クマSUNテラス) 大熊町産業交流施設 (CREVAおおくま)

アクセス

- 大熊ICから車で約8分
- JR大野駅から徒歩約1分

クマSUNテラスには、コンビニ、物販店のほか、ラーメン屋、中華料理屋など飲食店5店が入居します。大野駅周辺がかつて商店街として賑わっていたように、町民、来訪者、入居企業など世代や分野を越えた交流が生まれるような新たな賑わいの場の創出が期待されます。

各種イベントや宴会などにも活用可能な共有スペースや広場、小さなお子さんも楽しめるキッズスペースや噴水広場もあります。



令和7年3月15日
グランドオープン

富岡町

とみおかワイナリー

アクセス

- JR富岡駅より徒歩約3分

海岸線から150mの富岡駅東地区に広がる一面のブドウ畑と、この集落で唯一東日本大震災の津波に堪えた建物である、蔵を活用したとみおかワイナリー。施設内にはワインガーデンも整備され、豊かな自然を感じながら、BBQなども楽しむことができます。

着実な復興に向けての歩みを感じていただきながら、とみおかワインと常盤ものをはじめとした地域食材とのマリアージュをお楽しみください。



令和7年4月6日
プレオープン

飯館村

ハシドラッグ 飯館店

アクセス

- 福島交通バス医大経由
南相馬線「飯館農協前」から
徒歩約3分

飯館村は、平成29年3月には一部地域を除き避難指示が解除され、現在は、帰還住民や移住者によって賑わいを取り戻しつつあります。そのような状況の中で、日常生活における買い物がとても便利になる「ハシドラッグ」は、まさに村民や近隣の皆さんが待ち望んでいた施設です。なお、従業員募集中です。

医薬品や健康食品はもちろん、日用品や生鮮食品、出来立てのお弁当、村内産の野菜なども取り揃えています。



令和7年5月下旬
オープン

双葉町

双葉駅東地区 商業施設 (スーパー)

アクセス

- JR双葉駅前

双葉駅東エリアは、商業施設を中心に、歩きたくなるまちを目指し整備を進めています。その第一歩目が双葉駅東地区商業施設になります。まず令和7年夏頃にスーパーがオープンし、順次飲食店のオープンを予定しています。

日々の暮らしに必要な食料品をはじめ、日用品や家庭用医薬品が並びます。また、店内にはイトインも設置し、買い物だけでなく、憩いの場としても利用できます。



令和7年夏頃から
順次オープン予定

川内村

ワーケーション まちなか拠点 (仮称)

アクセス

- 小野ICから車で約23分
- JR神保駅から新常磐交通バス
で約29分

震災後ドイツ赤十字社等から寄付を受けた「なかよし館」を移設し新たに整備する複合施設です。コワーキングスペースやシェアオフィス、会議室等を設ける予定です。川内村での新たな働き方の可能性を広げる施設として、様々な方に利用いただけるよう整備していきます。今後、施設名称の公募を行いますので、皆様のご応募お待ちしております！

上川内町分地区の高台に位置し、眺望良く自然の中でゆったり過ごすことができます。ワークショップや学生連携などを行いながら、交流拠点としても活用していきます。



令和7年秋頃
開所予定

田村市

都路町複合 商業施設 (仮称)

アクセス

- 船引三春ICから車で約35分
- JR船引駅から福島交通バス
「岩井沢」前 (約40分)

Domo岩井沢店 (物販)、みやこじスイーツゆい (菓子販売)、麵処さとう (飲食) の3つの店舗と多目的に利用できる交流スペースを備えた複合商業施設で、買い物、食事、休憩場のほかドッグランなど様々な活動を行う場を提供いたします。

地域の特産品や地酒、地元食材を使ったおいしいスイーツの販売のほか、有名ラーメン店の味が楽しめます。



令和7年冬頃
開所予定

東京電力 追加賠償のご請求手続きに関するお願い

2011年3月11日時点で、中通り・浜通り地域にお住まいだった方を対象に、2023年4月から中間指針の見直し等を踏まえた追加賠償のご請求を受け付けております。

まだ、お手元にご請求書が届いていない場合には以下【お問い合わせ先】までご連絡ください。

こちらに該当される方は、ご請求書が届いていない可能性があります

お引越し等でご住所が変更になった場合

賠償請求時に「代表者」であった方がご逝去された場合

お名前(姓)が変更になった場合 等

当社からご請求書をお送りできていない方の中には、「当社事故時よりお引越し等でご住所が変更となっている方」や「ご逝去されている方」が多くいらっしゃいます。ご親族様やお知り合いの方で、未だご請求書が届いていない方がいらっしゃいましたらご連絡ください。

追加賠償に関する情報はこちらをご覧ください。



二次元コードまたはキーワード検索からアクセスください。

東京電力 追加賠償

検索

お問い合わせ先：東京電力ホールディングス株式会社 福島原子力補償相談室

中間指針第五次追補決定に係る精神的損害等の賠償に関するご相談専用ダイヤル

問 ☎ 0120-926-470 受付時間 午前9時～午後7時(月曜日～金曜日【除く休祝日】)
午前9時～午後5時(土曜日・日曜日・休祝日)

ご請求書類
郵送専用ページ



※当社コールセンターは電話が比較的つながりやすい状況ですが、時間帯によってはお待ちいただくことがございます。
※「ご請求書類郵送専用ページ」からもご請求書の郵送依頼を受け付けております。

令和7年度福島県復興公営住宅の入居者募集について

復興公営住宅の入居者の募集を下記の日程で行います。※募集期間は変更となる場合がありますので、最新情報は入居支援センターHPでご確認ください。

回	募集期間	入居予定
第1回	令和7年 4月1日(火)～4月9日(水)	令和7年 6月以降
第2回	令和7年 6月2日(月)～6月10日(火)	令和7年 8月以降
第3回	令和7年 8月1日(金)～8月12日(火)	令和7年10月以降
第4回	令和7年10月1日(水)～10月9日(木)	令和7年12月以降
第5回	令和7年12月1日(月)～12月9日(火)	令和8年 2月以降
第6回	令和8年 2月2日(月)～2月10日(火)	令和8年 4月以降

対象

- 避難指示区域等から避難されている方
- 平成23年3月11日時点で、避難指示が解除された区域に居住していた方
- 東日本大震災の地震・津波被災者
- 平成23年3月11日時点で中通り、浜通り(避難指示が継続している区域を除く)に居住していた方
- 比較的收入が低く、県営住宅の入居資格を備えている方

※住宅に困窮していることが要件となります。



募集の詳細(対象団地・応募要件等)は、福島県復興公営住宅入居支援センターへお問い合わせください。

問 福島県復興公営住宅入居支援センター
☎024-522-3320



東日本大震災に係る被災者生活再建支援金の申請期間の延長について

富岡町、大熊町、双葉町、浪江町の4町について、東日本大震災に係る被災者生活再建支援金の申請期間(基礎支援金・加算支援金)を、令和8年4月10日まで延長します。

支援金の申請については、福島県や被災当時にお住まいの町のホームページをご覧ください。下記番号までお問い合わせください。

問 富岡町役場生活環境課 ☎0240-22-2111

問 大熊町役場生活支援課 ☎0240-23-7444

問 双葉町役場住民生活課(いわき支所) ☎0246-84-5200

問 浪江町役場住宅水道課 ☎0240-34-0232

生活再建支援拠点を紹介します

県外へ避難されている方の相談対応や本県の支援策に関する情報提供、交流会の開催等を行う拠点を全国26か所に設置しています。今回は、栃木・神奈川の2県に設置している拠点を紹介します。

26か所すべての拠点の連絡先等
情報は、こちらから
福島県避難者支援課HP



栃木県

**特定非営利活動法人
とちぎボランティア
ネットワーク**

〒320-0806
栃木県宇都宮市中央2-7-6
TEL 028-678-3155
メール info@tochigivnet.jp
相談日時 火・水・金 10:00～17:00

来所でも訪問でも相談をお受けします。
30年にわたる地元のネットワークで様々な支援をしてきました。悩みごと・お困りごとを、私たちに話してみませんか。
雑談や世間話、おしゃべりだけでも構わないのでお気軽にどうぞ。
また、広報誌「とちぎ暮らしの手帖」も年1回発行しています。



神奈川県

**特定非営利活動法人
かながわ避難者と
共にあゆむ会**

〒231-0011 神奈川県横浜市中区太田町
4-47 コーワ太田ビル7階
TEL 070-5577-0311
メール ayumu.tomoni@gmail.com
相談日時 月～金 13:00～17:00
※火曜日と木曜日は相談員が別の日に折り返しさせていただきます。

お一人おひとりのお困りごとやご相談をしっかりと伺い、少しでも解決に向かうためのお手伝いをさせていただきます。平日午後は、当事者を含めたメンバーが事務所にいます。おしゃべりだけでもOKですので、お気軽にお立ちください。
今後もいろいろな交流会を計画いたします。参加者同士で気兼ねなくおしゃべりできるような場の提供を心掛けています。ぜひご参加ください。



県外に避難している高校生の就職支援について

福島県出身者で、現在県外に避難している高校生のうち、高校卒業を機に福島県内の企業へ就職を希望する生徒に対して、県内の各高校に配置した進路アドバイザーが、就職を希望する地区の企業求人情報を提供します。

求人情報の提供を希望する生徒は、現在通っている高校の進路指導担当（またはクラス担任）の先生を通して、相談窓口にお問い合わせください。その際、「現在通学している学校名」「学校の連絡先」「就職を希望する地区」「希望する業種や職種」「帰還予定時期」などをご連絡ください。各地区の進路アドバイザーが、希望に即した企業の求人情報を送付します。

問【事業に関する問い合わせ】 福島県教育庁高校教育課 ☎024-521-7773

問【相談窓口】 (株) 福島人材派遣センター 進路アドバイザー係 ☎024-521-5111

小名浜道路 今年夏頃開通予定！

小名浜道路は、いわき市泉町を起点とし、いわき市添野町を經由して、いわき市山田町に至る全長8.3kmの無料で通行できる自動車専用道路です。

小名浜道路により、小名浜港を中心とする地域と常磐自動車道が直結することで、常磐自動車道から小名浜港までの移動時間が大幅に短縮され、物流や観光ネットワークの強化が期待されます。

小名浜がぐっと近くなる小名浜道路をぜひご利用ください。

問 いわき建設事務所小名浜道路課 ☎0246-24-6036

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41380a/>

ふくしままっぷ友の会が発足しました

手書きの文字とイラストで構成された県総合情報誌「ふくしままっぷ」。この冊子を通して、福島の楽しさや素晴らしさを分かち合う取組として、「ふくしままっぷ友の会」が発足しました。お申込みいただくと、ふくしままっぷを無料でお届けするほか、オリジナルノベルティなどもご用意しております。

問 福島県広報課 ☎024-521-7124

詳しくはコチラ



全国避難者情報システム等への避難情報の届出のお願い

避難情報に変更(転居や帰還など)がありましたら、避難先の市区町村へ「全国避難者情報システム」への届出をお願いします。**届出た所在地宛てに、福島県や避難元市町村からのお知らせなどを送付できるようになります。**

併せて、13指定市町村(※)から避難されている方は、原発避難者特例法に基づく届出も避難元市町村宛てにご連絡いただくようお願いします。**避難先においても一定の行政サービスを受けることができますようになります。**

13指定
市町村(※)

いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、
大熊町、双葉町、浪江町、川内村、葛尾村、飯館村

問 福島県避難者支援課 ☎024-523-4250

全国避難者情報システムへの届出

①避難先の変更がある場合
(転居など)

②避難を終了する場合
(帰還・定住など)

①の場合

②の場合

現在お住まいの避難先市区町村及び転居後の避難先市区町村の双方へ届出

現在お住まいの避難先市区町村へ届出

原発避難者特例法に基づく届出

13指定市町村から避難されている方で、避難情報に変更がある場合、避難元市町村へ届出



おもちゃを通じて地域の笑顔を増やしたい！

「いつか地元で教育に関わる仕事をするのが夢でした」と語る中山駿さんは富岡町出身。教員を目指して埼玉県の大学へ進み、1年生の春休みに実家で過ごしていたところ東日本大震災が発生。家族と共に数カ月間、福島県内外で避難生活を送りました。卒業後は福島に戻り、家族が暮らす中通りで塾講師や営業職として勤務しましたが、やはり富岡町で教育に携わる仕事がしたい!と一念発起。おもちゃのサブスクリプション(定額レンタル)サービスを提供する株式会社ニココを2023年に立ち上げました。「少し前に我が子が生まれ、人生で初めて触れる教育器具がおもちゃだと気がきました。でも意外と値が張るものも多いので、誰もがリーズナブルにいろいろなおもちゃに触れられる機会をつくろうと思ったんです」。現在、国内外から約500種類のおもちゃを取り扱っており、その中から子どもの成長や好みに応じて月単位でレンタル内容をカスタマイズできるのがニココのサブスクサービスの特徴です。利用した子どもたちや保護者の笑顔が中山さんの大きな励みになっており、「おもちゃを通じて地域をもっと笑顔にしたい!」と意欲を燃やしています。

富岡町 中山 駿さん



インタビューの様子は
YouTube動画でも配信しています。
右の二次元コードからご覧ください。



貸し出すおもちゃのクリーニングや修理も中山さん自身が行います。



町内の「富岡わんぱくパーク」でもニココのおもちゃのサブスクを導入。

動画を
チェック!
ふくしま
VOICE

※ご職業等は取材当時のものです。
これまでのインタビューの様子も
上の二次元コードからご覧ください。

102号



米・甘藷農家
青木基さん(楡葉町)

103号



香音珈琲
佐藤有さん・とし子さん夫妻(南相馬市)

104号



陶吉郎窯
近藤学さん(浪江町)

105号



Kawamata-BASE
高野樹さん(川俣町)

106号

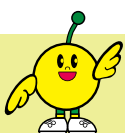


惣菜弁当 KIYA
蛸原宏行さん・紀子さん夫妻(広野町)

107号



双葉町結ぶ会
谷津田陽一さん(双葉町)



ふくしまが
もっと分かる

バックナンバーもチェック!

福島 今が分かる新聞

検索

